

朝のこない夜はない 山首 鈴 木 正 修

人の心に火を点す

ふ可き者有りやと。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所、 ベーものま 人に施すこと勿かれ」とあります。 語に「子貢問ひて曰く、 一言にして以て終身之を行けん

著作や講演によく引用されています。以下、平澤先生のちょさく こうえん 大学総長の故・平澤興先生はこの一節が大変お好きで、だいがくそうなき。このひらさわこうせんせい "法音』3月号で紹介した脳神経解剖学の権威で元京都ほうおん がつごう しょかい のうしんけいかいぼうがく けんい もとぎまと

解釈です。

が『それは恕なり』と断定せず、、知か、と曖昧に答え

りますか』。孔子は『それは恕かな』と答える。孔子

ておれば間違いのない人生が送れる、そういう言葉が子貢は聞いた。『先生、たった一語で、一生それを守しょう



恕だと孔子は説いた。つまりは思いやりということであ る。他を受け容れ、認め、許し、その気持ちを思いやる。 自分のことと同じように人のことを考える。そのことこいぶ 自分がされたくないことは人にしてはならない。それが たところに、なんとも味わい深い孔子の人柄を感じる。 平澤先生は教育における「恕」「思いやり」とは、ほからざわせんせい。ますいく 人生で一番大切なことだと孔子は教えたのである」

は人間が歩きだすときの姿である」 けない。ほめられることによって人間は成長する。教育 これが非常に大事である。絶対に人間はほめなければ やらせること。第三は自分もそれを実行すること。これ の基本の第一はあくまでほめること。第二はできるまで 教育の現場では思いやりとは何か。ほめることである。

考えてみれば赤ちゃんが初めて歩き出した時、どの親



めることであると言われています。

親はいません。必ずほめます。どんな歩き方でもほめまます。 もほめます。「あんまり上手じゃないな」と言うような す。転んでも、ひっくり返ってもほめます。

たたいて導いたりします。これが教育の原点であり、す お父さんもお母さんも一緒に歩きます。歩きながら手を ん。歩けるようになるまで辛抱強く見守ります。そして、 て転んで、「もう歩かなくてもいい」と言う親はいませ そして、できるまでやらせます。赤ちゃんが歩き出し

に火をつけることだ。火をつけて燃やすことだ」と言わ れています。 えるような情熱を持っていなければいけない」とも言わ れています。そして「火をつけるためには、こちらが燃 べてなのかもしれません。 また平澤先生は「教育とはほめて、励まして生徒の心

近年、ノーベル賞というと地元の名古屋大学の関係者



教えてください」と尋ねて行きました。普通の先生だと 深さを持った人だったそうです。ある時、 かん 日も四日も考えて、森先生のところに「どうも先生の言か」が、これでは、いますもは、い 之助というすばらしい人がおられて、二人を教えられたのすけ もあるが、 や第二号の朝永振一郎博士に関したい ごう ともながしんいちろうはくし かん 個性を尊ぶ自由な校風によるところが大きいのではにせいい。 が目立っていました。 も多いですが、 湯かかわ が良かった」 -れることがわかったようで、わかりません、もう少し ・プではなく、わかるまで徹底的に考え抜く、限りな湯川博士を例にとると、湯川博士は頭の回転の早いゆかおはくし、紫 と言われていました。 高校生はそんなところまで考えんでもいい」と 何と言っても三高(※) と言われます。 平澤先生の時代は京都大学出身の受賞者からざわせんせい、してい、ますとだいがくしゅしん、じゅうしゃ その理由をよく世間では 受賞者第一号の湯川秀樹博士 して平澤先生は、 の物理の先生で森総 湯川博士は三ゆかわはくし 限りな が京大の 「それ



す

あ。 裏まで見えるような人でないと、本当のほめ方ができなタシ。 問題になっているところだ。そこまで考えるとは偉いないだ。 考えたか。大したもんだぞ。それは今世界の物理学界でタネ゙ 言うところを、森先生は「そうか湯川、 れらの欠点が飾りに見えるようになれば本物だと思いまれらの欠点が飾りに見えるようになれば本物だと思いま ないのです。人の欠点が目につく間はまだだめです。 だけを見ておるようなほめ方はだめなのです。ほめ方も、 吹きこみ、心に火をつけたというのです。 の底から感心し、さらに話を進め、 のです。ほめるには、こちらがそれだけの行い なければ 平澤先生はさらに言われます。 朝永博士に対しても同じ態度だったそうです。 お前はわしよりも偉いぞ」と、お世辞ではなく、心 なりません。ほめるのはそう簡単なことでは 「ほめるとき、 学問に対する情熱をがくもんたい お前はそこまで ただ表 をして



は四十年間、 郎はいかにもすばらしく、私は心を打たれました。それ だ。しかし、少し要領が悪いような、堅すぎるようなとだ。しかし、少し要領が悪いような、タヒト の人の本来の表情がよくわかります。その点、今日の新いないのは、からいないではいいないでは、 やってきたので、笑っておっても、怒っておっても、 るような気がしました。私は四十年間、筋運動の研究を とをうれしく思いました。要領が悪いというようなお話 めてお会いしたが、まず、 それまで考えていた話を変えて もあったが、いかにも、私の若い時のことを言われて ころがある」と言いました。それに対して平澤先生は る大学の名誉教授が新郎のことを「非常に良くできる方だいがく。めいよきずじゅ しんろう 、それは違う、と感じ、スピーチの順番が回ってくると、 ・たが、 スピーチの順番が回ってくると、 平澤先生が結婚式に招待された時の話です。仲人であいるぞれませ、けらいことというだ。 人相見よりもっと確かです。要領が悪いかもしら 運動神経を研究してきた私が見てのことだった。 自分の顔を持っておられるこ 「実は今日、新郎と初



証します」と新郎をほめ称えたのです。 思さこそが、あなたの生真面目な生の姿なんだから、 領の良さなんて身につけることはない。あなたの要領の れを成長させなさい。 そこにあなたの魅力があるのです。それはあなたのすば くまでもそれを成長させなさい。 らしさの証拠であり、決して賢い人の真似をしたり、 んが、これこそが本物であるということの証拠であって、 みんな、目を丸くして聞いていたそうです。 自分というものを欺かないで、 あなたの将来は私が保 新郎の両 なかでも

親はとても喜ばれたようです。仲人さんは驚かれたことと思います。しかし、 平澤先生が新潟から京都に出てきて中学校に入学したひらさわせんせい にいがた きずと で たまがっこう ほうがく の若い頃の体験があるのです。 スピーチの中にもあるように、このほめ様には平澤先スピーチの中にもあるように、このほめ様には平澤先 当てられてうまく答えられないのは自分だけで、



川直人という先生のところへ行くと、タャタセッテ゚ヒ ない に五番という通知がきました。間違いではないかばん 第するかと思って一生懸命に勉強したら、だい は要領は悪いが、 と言って、 はもっと良い点をつけたいと思うくらいだ」 藤川先生は平澤先生を激励し、 実に真面目で、 先生はお前が大好きだ」 「いや間違が さらに「お前 一年の一学期 こいでは

しかし、 うことを今にして思います。自分は頭が悪い 「いまだに、 の生涯の一つの契機になったと思います」 平澤先生が京都大学の総長に決まった時、ひらざわせんせい。まずとだいがく、そうなす。 晩年になって平澤先生は語っておられます。 実に先生のひと言こそは、時に人生を支配するとい **^とにかくやればできるんだ。という感動が、** 私はその時の感激を忘れることができませ し鈍物だが、

と言ったのです。

校長だった中山再次郎先生のところへ「先生、えらいここうらき

その中学の



大局的に長い目で見ますと、やはり、誠実な人柄が最たがませる。そう簡単ではないよ』と言われる方もいますがんよ。そう簡単ではないよ』と言われる方もいますが 学の時の通りにやれ。うまくやろうなどと思うな」と言うない。 伸びるのです。誠実というのは情熱と努力と言い換えての 柄のうちでも、何が一番大事かというと、どうも誠実とがら 先生が大事にされたものです。 あるのではないかと思います。それは人柄です。その人 うな能力だけではなく、むしろそれよりも大事なものが 田舎者として頑張られたそうです。 えらいことになったなあ。でも、平澤、心配するな。中 とになりました」と報告に行くと、中山先生が「おう、 いうことかと思います。 「私は人間が真に事を成すにはただ秀才、鈍才というよ くそ真面目、 平澤先生は安心して、とにかく、くそ真面目ないらざわせんせい。あんしん すなわち「誠実」は、 『誠実ということだけではいか 誠実な人柄が最も 生涯を貫いて平澤



総きま そ の心に大い 平澤先生に は必然 です。 ずし 荒木寅三郎先生でした。 しも才では は生涯情熱 なる 偉大な仕事 火をつけたの なく、 Mの炎を燃き も を成な 多 よ く は や · の場合、 とげるのに最も必要 入学時のよ 、し続け、 情熱と努力です」 b 京都帝国大 1 ま たが

学生・荒木寅三郎生がなせい。あらきとらざぶろうせいれん。たず 確なりつ 荒木先生は25 菌え もと 明だ治じ の純 で 24年、 研究に打ち込み、 荒木寅三郎先生です。 そ 「世界の北里」 北里博士 北里博士を一 ベル 歳 で した。 は した。 リン滞在中の北里柴三郎博士を一人たいだいなり、きたさとしばさぶろうはくし、ひとり 言 わ 学究が訪ね 当時能に スト 1 と評価され 北里博士はこ のに破傷風 ま ラスブ そ も成な の 時、 た。 る存在に たの ĺ に対する血 の時既で 得な 北里博 グ大学留学中 っです。 か 士は な 15 一清療法 た破傷 悩や つ コ 心める荒ら 38 7 ツ ホ () 0

人と

人に熱なっ

と誠と

があ

れ

ば

何事でも達成できるよ。

ょ



ある。つまり行き詰まりは本人自身で、 き詰まったものがあるなら、それは熱と誠がないからで なる誤解である。世の中は決して行き詰まらぬ。もし行い く世の中が行き詰まったという人があるが、これは大い 世の中は決して

先生の生涯にわたって燃え続け、 行き詰まるものではない」 これはさまざまな困難と闘いながら自ら一道を切り拓 この言葉が若き一学究の心に火をつけ、 てきた北里博士の信念の言葉であったと思います。 平澤先生へと燃え移っ その火は荒木



三郎先生の熱と誠に満ちた新入生に対する訓辞であった。

講堂のすばらしさでもなく、総長荒木寅にうどう

総長の口から出る一語一語は、まさに燃えていた。先生に続きていた。

の大きさでも、

たのです。

大正9年9月10日、それは私にとって生涯忘れえない、たいようながっかった。

この訓辞は私にとって決して遠い過去のものではなく この訓辞は、 私はさらにこれを私のからだであたため、 眠術にでもかかったように全身全霊でこれを受けとめた。 謙虚を挙げられ、これらについて、けたぎょ をも加え、 と史上の実例などをもってくわしく説明され、我々は催しています。 ばられい は学徒にとり最も重要なものとして誠実、 その肉づけを続けて今日に至った。 生涯私とともにあって私を導いてくれたのとうだった。 それぞれ自らの体験 情熱、 私自身の経験 言わば、 努力、

燃やし、 とあらためて思います。 すばらしい話です。私達も 縁ある人々の心に火を点すようにしなければ~ 三徳の実行に情熱の炎を さんとく じっこう じょうねつ ほぼ

である」

学部および岡山大学医学部の前身。 京都市および岡山市に所在した旧制高等学校で現在の京都大学総合人間標準をは、またのでは、これでは、「まずと」に対しています。これでは、「ます」と、だいがくそうごうにはげん (旧制第三高等学校)

